

040322 環環保・廃3号
平成16年 3月 22日

北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理施設（第1期）に係る受入計画

環境事業団

北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業の実施に当たり、北九州市と締結した「北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る環境保全に関する協定書」第4条の規定に基づき、PCB 廃棄物の計画的な搬入を確保し、安全で効率的な処理の実施のため、北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理施設（第1期）（以下「処理施設」といいます。）に係る受入計画を次のとおり定めます。

1．受入開始時期について

- （1）処理施設の操業開始時期を平成16年12月1日とすることを予定します。
- （2）操業開始以前に、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）に基づく特別管理産業廃棄物処理業の許可（以下「業許可」といいます。）の取得等の、処理事業を行うために必要な法令上の手続きを完了させます。
- （3）操業開始後処理する PCB 廃棄物の受入は業許可取得後に行います（注）。

（注）操業開始前に行う試運転に用いる PCB 廃棄物は平成16年7月中旬から受け入れる予定です。

試運転に必要な PCB 廃棄物の確保については、試運転計画を北九州市に提示した上で、北九州市と協議の上決定することとします。

2．PCB 廃棄物の計画的な受入について

- （1）PCB 廃棄物の受入は、処理施設を構成する設備、機器の能力を勘案して適切に行うとともに、施設の処理能力を超えないように行います。
- （2）PCB 廃棄物の平均的な処理台数を次のように設定して搬入管理及び処理作業を行います。

大型トランス（車載型トランスを含む。）	1 台/3 日
中・小型トランス	2 台/3 日
コンデンサ	1 2 台/3 日
廃 PCB 等	ドラム缶 2 個/3 日

（備考）

上記の PCB 廃棄物の区分は、抜油・粗洗浄設備を構成する機器の大きさによる区分であり、 から に掲げる PCB 廃棄物は、いずれも高圧トランス、高圧コンデンサ及びそれらと同等以上の大きさを有する電気機器です。

（注）

ア） 処理対象であるトランス等の保管容器、漏れ止め用のウエス、漏れた PCB を吸収した吸収材など、処理対象物と一体のものとして搬入される PCB 汚染物も受け入れるものとします。

イ） 上記 と は一部設備を共有しますので、 を増やして を減らすこと、あるいはその逆を行うことがあります。

ウ） 上記 は、トランス等の老朽化に伴い、保管事業場で抜油するものが増加すれば、ドラム缶の荷姿での受入数を増やすことがあります。

3．受入 PCB 廃棄物の見込み量等について

（１） PCB 廃棄物の受入に当たっては、まず北九州市の区域内、ついで福岡県の区域内の PCB 廃棄物の受入を先行して処理することを基本とします。

（２） 平成 16 年度については、業許可を得てから行うことになる処理受託の状況が不確定ではありますが、上記 2 .(2) に記した平均的な処理台数により次のように処理見込み量を予定します。

大型トランス（車載型トランスを含む。）	3 0 台
中・小型トランス	3 0 台
コンデンサ	4 0 0 台
廃 PCB 等	ドラム缶 6 0 個

（注） 処理対象であるトランス等の保管容器、漏れ止め用のウエス、漏れた PCB を吸収した吸収材など、処理対象物と一体のものとして搬入される PCB 汚染物も受け入れるものとします。

- (3) 平成 1 7 年度以降についても、上記 2 . (2) に記した平均的な処理台数を基本として、PCB 廃棄物の受入を行うことを予定します。
- (4) 保管事業者に対する処理事業の周知・徹底及び処理委託の働きかけを精力的に行うとともに、北九州市が行う保管事業者に対する排出指導等の施策に積極的に協力することにより、操業開始年度に予定している処理見込み量の達成を図ります。
- (5) 平成 1 7 年度以降の処理受託についても上記 (4) と同様の措置により、処理能力に見合った処理対象物の受け入れを図ります。

4 . 受入実施計画について

操業開始後の各月別受入 P C B 廃棄物の詳細 (保管事業者名、受け入れる P C B 廃棄物の種類・量等) を示した受入実施計画を、前月の末までに北九州市環境局長に報告するものとします。